

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 16 日現在

機関番号：32406

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22330218

研究課題名(和文) 民衆の学びをめぐる史的交渉についての実証的地域研究 - 就学告諭を結節点に -

研究課題名(英文) A Study on the Start of Learning of People in Early Meiji.

研究代表者

川村 肇 (KAWAMURA, HAJIME)

獨協大学・国際教養学部・教授

研究者番号：60240892

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円、(間接経費) 3,930,000円

研究成果の概要(和文)：研究成果は、『就学告諭と近代教育の形成』と題する書物にまとめて発行を計画している。既に研究分担者、研究協力者共に原稿を執筆し終え、来年には出版予定である。

本書は二部構成をとっている。第一部では、全国の就学告諭を横断的に検討することによって、その全体的な特徴や傾向を示した。第二部では、度会府(県)、秋田県、飾磨県、筑摩県、奈良県、熊本県の六つの府県を取り上げ、就学の勸奨や学校設立の奨励がいかに行われたのかを検証した。

研究成果の概要(英文)： We have a plan to publish a book which contains the fruits of our studies. All manuscripts of the book are finished already and we selected the publisher. Now we are finding the financial support for it and will publish it in the next year. The book has two parts, in part one we collect the Syuugaku-kokuyus from all over the country and study them. We cleared the distinctive features and the dispositions of them so we will be able to study them from a new point of view and can go to the next stage of the study.

In part two six case studies are there; Watarai-fu, Akita-ken, Shikama-ken, Chikuma-ken, Nara-ken and Kumamoto-ken. We cleared how they let people understand to establish new modern schools which had nothing to do with the old Terakoyas and make their children go to the schools by using the Syuugaku-kokuyus.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：就学告諭 学制 学校創設 就学勸奨 地域 学校 就学

1. 研究開始当初の背景

1872(明治5)年の「学制」発布から5年のうちに、今日の小学校数と同等の、25,000もの学校が設立され、学校教育の基礎が置かれた。幕府が崩壊し、新政権ができつつある中で民衆が教育や学校に求めたものは何であったのか。短期間のうちに、それはどのように学校へと組織されることになったか、その解明は必ずしも十分ではなかった。

そこで、申請者は本研究申請以前に研究会を組織し、「就学告諭」に関する研究を蓄積してきた。その多くが参加していた前身の研究会では、科学研究費の助成も受けながら、全国の「就学告諭」を収集し、一定の分析を既に行ってきた。幸いにも出版助成を得て荒井明夫編『近世黎明期における「就学告諭」の研究』(東信堂、2008年)に、その成果を結実させることができた。これを通じて、近代日本初期に「民衆」の学びへの要求が、地域・歴史・文化の多様性のもとに、いかに組織化されていったのかを考察してきた。

2. 研究の目的

本研究では、上記の成果をさらに発展させて、「就学告諭」の言説分析を超え、地域での具体的な動きに着目した研究を行うことによって、言説分析そのものを深化させつつ、「民衆の学び」が学校へと収斂していった理由を明らかにすることを目的とした。また、国内の動きばかりでなく、世界の動きの中に「学制」を位置づけようとした。

3. 研究の方法

以下の四つの方法を用いて研究を進めた。
(1)「民衆の学び」をめぐる史的交渉に特徴的な地域でフィールドワークを行い、政策側の論理との間にどのような動きがあったのかを解明する。
(2)「就学告諭」の論理が幕末・維新时期において、どのように準備されて行ったのかを明らかにする。
(3)以上の知見を「就学告諭」総体の言説分析にフィードバックし、精緻な分析を行って、学校組織化の論理の一端を解明する。
(4)同時期の世界の教育を巡る状況の報告を受け、その中に日本の「学制」を位置づける。

4. 研究成果

研究成果は、『就学告諭と近代教育の形成』と題する書物(以下、本書)の発行を予定している。研究分担者、研究協力者共に原稿を執筆し終え、出版社との打ち合わせも終わっている。出版助成金を得て2015年には出版の運びとしたい。

本書は、明治5年(1872年)に太政官、文

部省から発令された学制と、それを前後して全国各地で発せられた就学告諭とを対象として、就学勸奨の論理と、学校創設を巡る中央政府、地方官、地域民衆の史的交渉を明らかにすることを通じ、日本の近代教育の形成過程の一端を明らかにしようとするものである。

本書は研究論文編と資料編に分かれ、さらに研究論文編は二部構成をとっている。

研究論文の第一部では、全国の就学告諭を横断的に検討することによって、その全体的な特徴や傾向を示すとともに、就学告諭研究の新たな分析視角を提案した。

まずは就学告諭を再定義した。荒井明夫編著『近代日本黎明期における「就学告諭」の研究』(東信堂、2008年)で曖昧さを残した対象時期や「就学」が指し示す内容の再吟味によって、同著の記述を乗り越えることを目指す(第一章)とともに、従来ほとんど検討されなかった告諭の文書形式など、その形式的な特徴や周知方法に着目することによって、先行研究を批判的に再検討した(第二章)。次に、就学告諭の内容(論理)を横断的に分析した。下達すべき新たな情報を「告げる」だけでなく、「諭す」(受信者を説得する)ことが就学告諭の基本的性質だとすれば、その論理の解明が必須の課題となる。しかし、就学告諭は各地域の指導者層が作成した文書だけに、その多様性にこそ特徴がある。そこで、一つの定まったモデルである学制布告書と多様な就学告諭群を比較検討するという方法を採用することによって、就学告諭の全体的な特徴や傾向を示した(第三章)。就学勸奨の論理として見逃せないながらも同著では詳細に検討されなかった「立身・出世」言説に着目(第四章) また同著にはなかった視点である「強迫性」を分析した(第五章)。続いて、新しい試みとして、学制や就学告諭を、同時代の「世界(史)」のなかに位置づけてみた。特にこの時期に強い影響を受けたと考えられるアメリカにおける就学勸奨の論理との比較(第六章)や、日本とはかなり異質な世界に属しつつも、教育法の共時性という点で格好の素材を提供するオスマン帝国との比較(第七章)によって、日本の学制や就学告諭の特徴を浮き上がらせることを目指した。なお附論として、主として資料的観点から、就学告諭に関連する論考を加えた。

第二部では、度会府(県)、秋田県、飾磨県、筑摩県、奈良県、熊本県の六つの府県を取り上げ、それぞれの地域の就学告諭に着目しつつ、就学の勸奨や学校設立の奨励がいかに行われたのかを検証した。

すなわち、就学告諭がどのような背景をもって作成され、就学勸奨や学校設立の奨励はどのように行われたのか、他方で行政によって行われる施策を地域の人々はどのように受け止められたのかといったことを検証するのが第二部である。維新後の府藩県三治制から明治四年の廃藩置県へ、そしてその後も

激しい行政区画の統廃合が続く政治的混乱のなかで、翌明治五年以降の学制の実施や就学告諭の趣旨の伝達は、多くの困難をともなした。就学勸奨を任務とした地方官吏たちは、次のような現実的課題に直面していた。

近世の教育機関から、より広い階層の人々に門戸を開く教育機関への転換、ないしは小学校への移行をどのように図るのか。地域住民の自発的な教育要求をどのように受け止め、小学校設立や就学につなげるか。効果的な就学勸奨の方法は何か。どのように就学告諭の趣旨を地域に普及・徹底させるか。どうしたら学校設立や維持のための資金が徴収できるか。以上の現実的課題から透けて見えてくるのは、地方官吏が対峙していた地域の人々の姿である。それは教育要求を掲げる人々、それとは逆に就学の意義を見出せない人々、いずれであっても資金の供出を拒む人々などであった。こうした地域の人々の現実の姿と地方官吏が目指す学校システムの建設とはどのように相対したのか、地方文書を駆使してその実態に迫った。

資料編には、数百に及ぶ就学告諭の史料一覧表と、文書史料を掲載し、研究成果の公表と共有をはかっている。

以上、本書は学制と就学告諭を縦軸としてその論理を解明しながら、実際に学校が創設されていった地方の具体的な動きを明らかにすることで、近代日本の教育の形成過程を明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計13件)

熊澤恵里子「幕末明治の福井藩人材育成と海外渡航」(『福井県文書館資料叢書』第10号、2014年、査読無し、pp313-321)

宮坂朋幸「明治初年の開校式 京都府を事例として」(『教育文化』第22号、2013年、査読無し、pp148-174)

熊澤恵里子「沼津と英学」(『東日本英学史研究』第12号、2013年、査読無し、pp19-32)

三木一司「赤木通弘手記『明治二十年六月造士館騒動』」(『近畿大学九州短期大学研究紀要』第43号、2013年、査読無し、pp65-71)

熊澤恵里子「越前松平康荘の英国留学と試農場の創設」(『地方教育史研究』第34号、2013年、査読無し、pp113-123)

塩原佳典「筑摩(長野)県の教育をめぐる名望家層の位相-民権派教員との関わりから」(『日本の教育史学』第56集、2013年、査読有り、pp6-18)

塩原佳典「「学制」期における学事担当者の生成過程 松本藩体制解体による地域秩序再編に着目して」(『日本教育史研究』第32号、2013年、査読有り、pp37-63)

荒井明夫「『就学督責』研究ノート 一八八〇年代への教育構造転換に関する研究試

論」(『一八八〇年代教育史研究年報』第4号、2012年、査読有り、pp129-147)

熊澤恵里子「他国修行 福井藩教育改革の軌跡」(『福井県文書館研究紀要』第9号、2012年、査読無し、pp1-28)

高瀬幸恵「明治初期の鳥取県における就学勸奨 地域住民よりの反発に注目して」(『鶴川女子短期大学研究紀要』第30号、2012年、査読無し、pp29-37)

池田雅則「学制を迎えた農村の漢学師匠 新潟県長善館館主鈴木蔭軒を事例として」(『地方教育史研究』第32号、2011年、査読無し、pp21-43)

竹中暉雄「「学制」前文(明治五年)の再検討」(『桃山学院大学人間科学』第40号、2011年、査読無し、pp269-322)

宮坂朋幸「滋賀県における就学勸奨政策「告諭」という方法」(『びわこ学院大学研究紀要』第2号、2010年、査読無し、pp37-55)

〔学会発表〕(計5件)

池田雅則「地域リーダーたちの学びの展開 近代移行期・長善館学塾資料の世界」(平成25年度新潟県立文書館特別企画展記念講演、招待講演、2013年10月26日、新潟県立文書館ホール)

軽部勝一郎「維新期の直轄県におえる郷学の展開に関する一考察 東北諸県を事例として」(教育史学会、2013年10月14日、福岡大学)

熊澤恵里子「The Education of the New Nobility in the Meiji Era: Matsudaira Yasutaka's Agricultural Study in England」(第1回ヨーロッパ日本研究会 EAJIS 日本会議、2013年9月28日、京都大学)

宮坂朋幸「明治初年の開校式」(教育史学会、2012年9月22日、お茶の水女子大学)

熊澤恵里子「他国修行 福井藩教育改革の軌跡」(平成22年度福井県文書館講演会、2011年2月12日、福井県立図書館多目的ホール)

〔図書〕(計6件)

塩原佳典「名望家と開化の時代 地域秩序の再編と学校教育」(京都大学学術出版会、2014年、357ページ)

池田雅則「私塾の近代 越後・長善館と民の近代教育の原風景」(東京大学出版会、2014年、472ページ)

宮坂朋幸「日本の教育文化史を学ぶ 時代・生活・学校」(山田恵吾編。第三章「近代化の中の教育」担当、ミネルヴァ書房、2014年、全320ページ中63-91)

軽部勝一郎「教育の歴史と思想」(石村華代と共著。第二部「日本教育史 明治時代の教育とその思想」担当、ミネルヴァ書房、2014年、全232ページ中164-180)

荒井明夫「明治前期中学校形成史 東日本編」(神辺靖光編。「第五章 山形県における

尋常中学校の成立」担当、梓出版社、2014年、
全448ページ中239-275)
竹中暉雄「明治五年「学制」 通説の再検
討」(ナカニシヤ出版、2013年、490ページ)

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕
ホームページ等：なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

川村 肇 (KAWAMURA, Hajime)
獨協大学・国際教養学部・教授
研究者番号：60240892

(2) 研究分担者

荒井 明夫 (ARAI, Akio)
大東文化大学・文学部・教授
研究者番号：60232005

大矢 一人 (OOYA, Kazuto)
藤女子大学・文学部・教授
研究者番号：10213878

熊澤 恵里子 (KUMAZAWA, Eriko)
東京農業大学・教職・学術情報課程・教授
研究者番号：90328542

宮坂 朋幸 (MIYASAKA, Tomoyuki)
大阪商業大学・総合経営学部・准教授
研究者番号：90461954

三木 一司 (MIKI, Kazushi)
近畿大学九州短期大学・保育科・准教授
研究者番号：60304705

軽部 勝一郎 (KARUBE, Katsuichirou)
熊本学園大学・経済学部・准教授
研究者番号：30441893

杉村 美佳 (SIGIMURA, Mika)
上智大学短期大学部・英語科・准教授
研究者番号：70442126
(H22～H23.10、H25)

竹中 暉雄 (TAKENAKA, Teruo)
桃山学院大学・経営学部・教授
研究者番号：70064722
(H22～H23.10、H24～研究協力者)

高瀬 幸恵 (TAKASE, Yukie)
鶴川女子短期大学・講師
研究者番号：30461792
(H22～H24、H25は研究協力者)

池田 雅則 (IKEDA, Masanori)
兵庫県立大学・看護学部・准教授
研究者番号：60609783
(H23～)

森田 智幸 (MORITA, tomoyuki)
山形大学・大学院教育実践研究科・講師
研究者番号：70634236
(H24～)

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

大間 敏行 (DAIMA, Toshiyuki)
武蔵野美術大学・講師

杉浦 由香里 (SUGIURA, Yukari)
愛知淑徳大学・講師

長谷部 圭彦 (HASEBE, Kiyohiko)
駒澤大学・講師

塩原 佳典 (SHOHARA, Yoshinori)
日本学術振興会特別研究員